

広報

おやす

2024

6

No.233

(特集) 小さな隣人「猫」の命を考える





小さな隣人「猫」の命を考える

日本に弥生時代から生息していたといわれる、**猫**。ネズミの害を防ぐ益獣として、また、愛玩動物として人間と共存してきました。

現在、国内で飼われている数は犬の約684万頭よりも多い約907万頭と推計されており（令和5年全国犬猫飼育実態調査：一般社団法人ペットフード協会）、非常にたくさんの飼い猫が幸せに暮らしています。

一方で、屋外の厳しい環境で暮らしている猫も数えきれないほどいます。また、飼い猫として暮らしていても飼い主の都合で捨てられたり、適切な飼育を受けられず病気になったりする猫もいるのが現実です。

小さいけれど、大切な命。人も猫も幸せな暮らしを、考えてみませんか。

屋外には危険がいっぱい

近年では室内飼いが当たり前になり、猫の寿命も延びてきていますが、外で暮らす野良猫は、あまり長生きできません。

交通事故や落下事故はよくあることで、イタチなどの野生動物による捕食や猫エイズ・白血病などの感染力が強く死亡率が高い感染症、厳しい暑さ寒さ、雨風…猫たちにとって**外は危険であふれている**のです。

猫風邪とも呼ばれる猫カリシウイルス感染症や猫ウイルス性鼻気管炎（猫ヘルペスウイルス感染症）も、重症化すると死亡することがあるだけでなく、猫たちにとって大変しんどい病気です。また、完治することはありません。

「猫は外が好きだろう」という**間違った思い込み**から、室内飼いの猫でも外出させる飼い主がいますが、猫は**キャットタワーや家具などの昇り降り**で上下運動ができれば室内でも**ストレス解消**できる動物です。一度外に出してしまうと事故やけが、感染症、問題行動などの原因となる恐れがあるので、家の中で飼うようにしましょう。

治療法がなかったり、命に関わる感染症もあります。いつ、どこでかかるかわからないので、ワクチンでしっかり予防しましょう。

獣医師に聞きました

おおず森のどうぶつ病院
院長 竹内 せいごう 正剛さん



ねぎ



おうちが
いちばん
安心ニャ

ペットから人への感染で死亡例も！ マダニによる感染症が増えています

マダニ媒介感染症の一つ **SFTS（重症熱性血小板減少症候群）** は、ペットから人に感染することもあり、日本での致命率は猫で約65%、人で約30%といわれています。

県内でも感染例が報告されています。動物病院で猫のマダニ対策をしましょう。



飼う前に
考えてほしいニャ

知ってほしい猫のこと



猫は人と暮らすように変化した動物で、自然に生きる野生動物ではありません

猫は古くから人に飼われ、人間社会で人と暮らすように変化した動物で、野生動物ではありません。人が責任を持って世話と管理をしなければならない動物です。

猫は非常に繁殖力の高い動物です

メスの子猫は生後4～12カ月で繁殖できる体になります。栄養状態が良ければ1回で4～8頭、年2～4回の出産が可能です。1頭のメスから年20頭以上増える計算になります。



これらのことはもちろん、毎日の世話や病気・老後のこと、かかるお金のことなどしっかり知って、考えて、責任を持って、人も猫も幸せになれる暮らしを目指しましょう。

飼い猫は長くと20年以上生きてます

飼い猫の平均寿命は15.79歳（令和5年全国犬猫飼育実態調査：一般社団法人ペットフード協会）と、昔と比べて長くなっています。

本当に最期まで飼うことができるかよく考えて家族に迎えましょう。

猫を捨てることは犯罪です

増えすぎたから、飼えなくなったからと猫を捨てることは絶対にしないでください！飼い猫は、外では生きていけません。

動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）により、愛護動物を遺棄した者は、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処することとされています。

猫と生きる覚悟

12年前、野良猫の産んだ子猫が自宅の壁のすき間に落ちてしまい、目が開くようになったばかりの子猫を保護しました。当時は犬を飼っていたこともあって迷いましたが、「あずき」と名付け、そのまま自宅で飼うことにしました。あずきは2回の出産で7頭の子猫を産み、6頭は里親を探して引き取ってもらいましたが、茶トラの「チェン」だけはもらい手が見つからず、長く過ごすうちに愛着が湧きウチの子に。その後保護猫の活動の中で「もんちゃん」を引き取り、3頭の猫たちと暮らしています。

とにかく猫たちがかわいくて仕方ありません。子供たちとくっついて寝ている姿、私家事をしているのを炊飯器の中から（笑）じっと見つめる姿。吐いたり粗相したりしてしまっても、かわいい！今では猫たちが家族のコミュニケーションの中心になり、家族全員が癒されています。猫たちも家の中で自由にのんびり、安心して過ごしています。

猫も20年近く生きる時代。この子たちが最期まで幸せに暮らせるよう尽くしていく覚悟です。

前田 亜希さん



チェン

あずき

もんちゃん

不妊去勢手術で望まれない繁殖を防ぐ

猫の数の増えすぎによって起こる問題は、ふん尿による悪臭などのような人間にとっての被害だけではありません。猫にとっても過密な環境は大変なストレスになるだけでなく、衛生環境の悪化から病気にかかりやすくなります。生まれてきた子猫も長くは生きられません。

「かわいそうだから」と野良猫に不妊去勢手術を受けさせず餌をあげる人がいますが、猫は栄養状態が良くなると繁殖し、1頭のメス猫から年間20頭以上に増える可能性があります。そうなったときに適切な世話ができるでしょうか。「かわいそう」と思ってやったことが、見えないところで更なる「かわいそう」を生むことになります。餌をやるのであれば責任を持って不妊去勢手術を受けさせる必要があります。

これは野良猫に限ったことではなく、家で飼っていても脱走してしまったときに妊娠する（させる）こともあるため、予防する必要があります。

また、予防以外にもメリットとして、

- ▷発情しなくなり、大声で鳴いたり、スプレー（マーキング）をしたり、異性を求めて外出しようとする行為が軽減される
- ▷発情期のストレスがなくなり、性格が穏やかになる
- ▷乳腺腫瘍や生殖器系の病気の発生率が低くなる

といった効果も期待できます。



猫風邪にかかった野良猫。重症化すると命にかかわることもあるが、病院に連れて行ってくれる人はいない。



補助金を
活用するニャ

猫の不妊去勢手術補助金制度

大洲市では、猫の不必要な繁殖や周囲に対する迷惑の未然防止を図るため、手術費用の一部を補助しています。

補助対象

大洲市内に住所を有する個人が、飼い猫または飼い主のいない猫に愛媛県内の動物病院で手術を受けさせたものに限りです。

※ 大洲市に住民登録がない人や市税などを滞納している人は対象となりません。

対象期間

4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

※今年度の予算に達した時点で終了します。(先着順)

補助金額

下記の補助額または手術料金のいずれか低い額

① 飼い主のいない猫…オス4,000円・メス8,000円

② 飼い猫…オス2,000円・メス4,000円

※ 飼い猫は、年度内で1世帯1頭に限りです。

問い合わせ先

環境生活課生活衛生係

☎0893(57)9966

市ホームページ



探してみよう
さくら猫



不妊去勢手術済みの猫の印として、オスは右耳、メスは左耳（地域によっては逆の場合も）にV字カットを入れてあります。

多頭飼育崩壊から猫を守る

みなさんは「多頭飼育崩壊」という言葉を聞いたことがありますか？多頭飼育崩壊とは、ペットに不妊去勢手術を受けさせなかったために適切に飼育できない数まで繁殖してしまい、飼い主もペットも不衛生で危険な環境で暮らさざるを得ない状況をいいます。

安易に数を増やしてしまった結果、飼い主の経済力や世話が追い付かず、ペットは十分な餌や水も与えてもらえなくなります。ふん尿の掃除も行き届かない劣悪な環境に閉じ込められ、多くは猫エイズや白血病などの感染症にかかり、苦しんで亡くなります。また、悪臭などで近隣にも迷惑がかかります。



とっても
つらい
ことじゃ・・・

市内でもこのような事例は発生しています。飼い主と数十頭の猫が、物が散乱し、ふん尿が堆積した家の中で暮らし、その中で多くの猫たちが人知れず命を落としているという事例もありました。

では、どうしてこのようなことが起こってしまうのでしょうか。

緒方 陽子さん

うめちゃん



多頭飼育崩壊の現場などから多くの猫たちを保護し里親につなげ、命を救う活動の傍ら、愛媛県動物愛護推進員として地域における犬・猫などの動物の愛護や適正な飼養に関する普及啓発を行っている緒方陽子さんにお話を伺いました。

— 多頭飼育崩壊が起こる原因は何でしょうか？

飼い主の状況が大きな原因になっていると思います。貧困や孤独感、家族関係など問題を抱えている場合が多いです。認知症や障害により適切な飼育ができないケースもありました。室内飼いや不妊去勢手術はかわいそうだというような、猫の飼育に関する間違った知識を持って飼っていることも原因です。**正しい知識と責任を持って猫を飼うことが必要**です。

— 周りに多頭飼育崩壊している家を見つけたらどうすればいいですか？

適切な飼育をしないのは動物虐待に当たりますが、飼い主本人は自覚がないことが多く、周りの人が飼育方法について直接指摘しても改善は難しいです。本人だけで解決することもできないので、おかしいと思ったらまずは**市役所や保健所など行政機関に相談**してほしいです。そうすることで、改善勧告や命令、福祉分野や動物愛護の活動をしている団体などとの協力による改善の可能性があります。

— 何のために保護や啓発の活動をしていますか？

猫は自分で言葉を話すことができません。つらい思いをしている猫たちを助けるために活動しています。

私は大洲が好きで、猫も犬も好きです。猫は本来自由な生き物です。そんな猫たちが近隣トラブルもなくのんびりと暮らせる、人も猫も幸せに共存できる優しいまちになってほしいです。



多頭飼育崩壊の現場から保護した「パン太郎」。左は保護した日、右は現在。疥癬（かいせん）が治り、体はふっくらして毛艶も良くなった。表情も穏やかだ。

猫たちの代わりに、声を上げてほしい

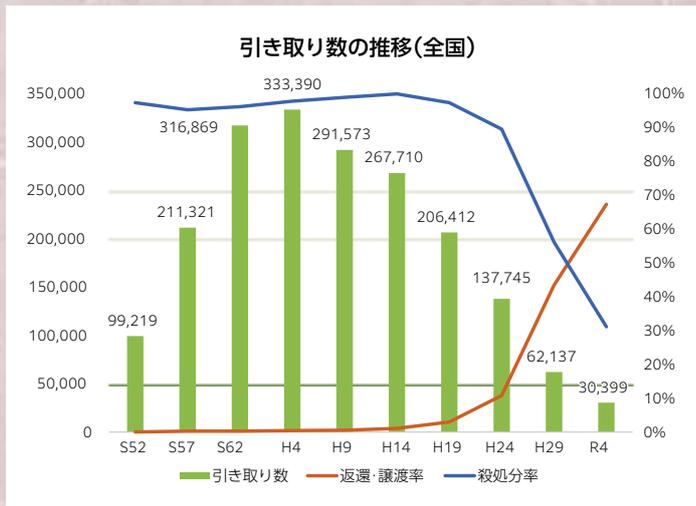
殺処分から譲渡へ

令和4年度に行政機関に引き取られ、殺処分された猫の数は全国で9,472頭。まだ多くの猫たちが苦しんで亡くなっていますが、譲渡数が増え、引き取り数と殺処分数は激減しています。

これには、令和2年6月から動物愛護管理法改正により原則として野良猫の捕獲や引き取りを行わなくなったことに加え、動物愛護活動団体や個人ボランティアなどによる活動が大きく影響していると考えられます。



出典：「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」（環境省）を加工して作成
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html



譲渡会で保護猫の新しい幸せを探す



捨てられた猫や市民が保護した野良猫たちにワクチン接種や血液検査などを施し、新たな飼い主とつなげるボランティア活動をしている団体があります。

「おおずねこの会」は、1頭でも多くの命を救うことを念頭に置き「つなげよう大洲猫を大洲市民に」をスローガンとして、令和3年の秋から保護猫の譲渡会を始めました。大洲市が後援している年2回（総合福祉センター、畑の前河川敷）のほか、富士山オートキャンプ場と商業施設でもそれぞれ年3回開催していて、昨年だけで20頭以上の猫たちが新しい家族に迎えられています。



おおずねこの会
ひとみ
代表 和田 仁美さん

コシロ

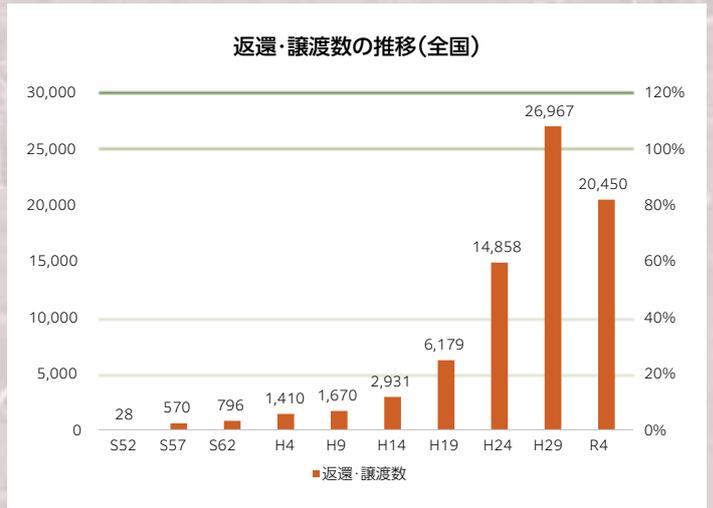
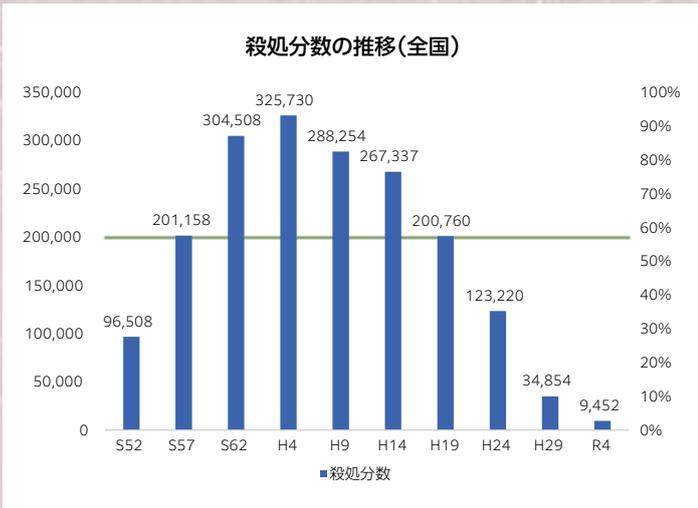
譲渡会の開催情報はこちら
おおずねこの会Instagram



住んでいる地域で野良猫が増え、地域のみなさんの理解を得て地域猫活動をしていましたが、1頭でも多くの猫を救いたくて、大洲市全域で活動する「おおずねこの会」を始めました。

保護した野良猫に不妊去勢手術を施し、飼い猫になれそうな子は譲渡会で家族を探し、外の生活が長い子は地域猫として暮らせるよう元の場所に戻しています。ただ、私たちが活動する間にも手の届かないところで次々と子猫が生まれたり捨てられたりして、不幸な猫がなかなか減らないのが現状です。

そこで、野良猫問題やTNR、地域猫（7ページ参照）についてみなさんに知ってもらうために、パネル展などの啓発活動にも力を入れています。今後も地道に活動を続けながら地域全体に動物愛護の意識を根付かせることで、間接的にもたくさんの猫を救っていかれたらと思っています。



地域で人と共生する ～TNRと地域猫～

おなかをすかせた野良猫に餌をあげたくなるのは人として自然な感情ですが、ただ餌を与えるだけでは猫が繁殖し、世話をしきれなくなってしまうのも自然なことです。手に負えないからといって猫たちをどこかに連れていくこと（遺棄）は、人間社会においては犯罪、猫にとっては生きる場所を奪われることであり、身勝手極まりない行為です。

増えたときに世話をしきれないのなら餌をやらない、餌をやるのなら不妊去勢手術を受けさせることは、人としての責任です。

「TNR」とは、Trap=仕掛けをして野良猫を捕まえる、Neuter=不妊去勢手術をする、Return/Release=元の場所に戻すという野良猫の繁殖を制限する活動のこと。このTNR活動によって「さくら猫（4ページ参照）」となり、生を全うするまで住み慣れた場所で地域の人たちに見守られながら暮らす猫を「地域猫」といいます。

家で暮らすが安全で安心とはいえ、外で暮らしてきた猫たちにとっては、飼い猫になるより住み慣れた環境で生きることが幸せな場合もあります。そんなとき人に迷惑をかけず、嫌われずに暮らすことができれば、もっと幸せな一生を送ることができるでしょう。

猫が好きな人も、猫が苦手だ・迷惑だと感じている人も。地域のみなさんと協力して、野良猫を増やさず共生できる道を探してみたいはいかがでしょうか。



庭に住みついた野良猫の「からし」に餌をやっていた住人は、TNRを行い地域猫として見守ることを決意した。写真は捕獲時の様子。

猫に関する相談窓口
環境生活課生活衛生係
☎0893(57)9966

困ったら
相談するニャ!

人も猫も幸せに暮らせる社会を目指して